

第7代理事長として本学会を振り返る (2000年4月～2004年4月 学会大会：第30回～33回)

第7代理事長（現副会長） 坂口正治

本学会が今日に至るまでには諸先輩方のご尽力と努力の賜物と感謝申し上げる次第です。

このような伝統ある学会の第7代理事長に就任し、改めて任の重さを感じながら2000年第30回大会（明治大学）から2003年第33回（東北福祉大学）までの4回の学会大会を会員はもとより役員の方のご指導とご協力により無事開催することができました。この2期4年間を振り返ってみたい。

☆ 2000年4月～2004年4月（4年間）の学会大会を振りかえって

2000年（平成12年）の学会大会は寺島善一（明治大学）実行委員長のもと第30回記念大会として「新しい時代とあそびの再考」を大会テーマとした。また、記念講演には今は亡き作家の井上ひさし氏にお願いした。シンポジウムには「あそびと文化」、「あそびと空間」、「あそびとライフスタイル」について3人のシンポジストにお話をいただいた。この記念大会を機に学会の活性化と会員相互の研究組織のスタートを図った。

2001年（平成13年）は、第31回学会大会を千葉大学（園芸学部）で鈴木祐一会長、学会副会長、実行委員長油井正昭氏のもと「レジャー・レクリエーションから見た自然環境」を大会テーマに基調講演は進士五十八氏（東京農業大学学長）にお願いした。21世紀初年に開催する大会はレジャー・レクリエーション学の発展につなげていきたいとの思いでもあった。大会開催校である千葉大学園芸学部の松戸キャンパスは、90年を超える緑豊かな環境にあり、このテーマを討議するに相応しい場所であったことから昼休みの時間を利用して学内での見学会を開催した。これを機に学会での地域研究へと発展した。

2002年（平成14年）は、第32回学会大会を松田義幸会長、古城建一実行委員長のもとで、開催した。基調講演を「障害者スポーツからのメッセージ - 太陽の家37年の歩みを通して - 」吉永栄治氏（社会福祉法人太陽の家事務局長）にお願いした。また、講演に引き続いて、堀川裕二氏（太陽の家訓練課長）、麻生和江氏（大分大学）、綿裕二氏（長崎国際大学）の三氏の報告とシンポジウムが行われた。続いて3つのセッションに分かれてのワークショップは、①セラピューティックレクリエーション；②景観・造園・環境；③レジャー・レクリエーション産業であった。

2003年（平成15年）は、松田義幸会長、小野寺浩三実行委員長（東北福祉大学）のもとで第33回学会大会を東北福祉大学で開催した。第1日目に「独眼竜正宗 - 伊達者らしい最後」と題し逸見英夫氏（仙台郷土研究会副会長）の講演の後、フィールドスタディ「仙台北城址」を実施した。（福祉大学発 - 瑞宝殿 - 仙台北城址 - 仙台市博物館 - 福祉大学着）2日目は、基調講演を「レジャー・レクリエーションと地域文化」と題して、大村虔一氏（宮城大学教育研究担当副学長・事業構想学部教授）にお願いした。講演に引き続き、シンポジウムとして「世代間交流にみる諸活動」、また昨年を引き続いて、ワークショップを開催した。①セラピューティックレクリエーション；②景観・造園・環境；③レジャー・レクリエーション産業であった。今大会では、地域色を存分に出してのプログラムが印象的であった。

以上、雑駁ではありますが、2000年第30回学会大会から2003年第33回学会大会（4回）を振り返ってみました。

私が理事長として4年間、任務を全うできましたのも会員の皆様はもとより役員の方からのご支援とご協力のおかげと心から感謝申し上げます。

学会は会員なくして成り立ちません。今後共、一層のご協力とご理解をお願い申し上げます。